

第3回（仮称）練馬区学びと文化の推進プラン策定懇談会会議録

- 1 開催日時 平成27年2月25日(水)午後6時から7時55分
- 2 開催場所 練馬区役所5階庁議室
- 3 出席委員 齊藤委員〈座長〉、漆澤委員〈副座長〉、池田委員、大橋委員、川井委員、堀川委員、田中委員、高橋委員、佐藤委員、橋本委員、古谷委員
- 4 欠席委員 柴辻委員、金井委員、中村委員
- 5 公開可否 原則公開（傍聴人0人）
- 6 配布資料 資料1 （仮称）練馬区学びと文化の推進プラン素案（案）
資料2 今後の策定スケジュールについて
- 7 議事等 (1)（仮称）練馬区学びと文化の推進プランの策定について
(2) 今後の策定スケジュールについて
(3) その他

〈会議等の要旨〉

(1) 開会

○地域文化部長あいさつ

前回は、（仮称）区政運営の新しいビジョン素案（案）を含めて皆様のお考えやご意見をいただいた。各委員のご意見やビジョン素案（案）を踏まえ、メリハリをつけて今までにないプランとなった。今日は、各委員の忌憚のないご意見をいただいて固めていきたい。この後、議会のご意見もいただき成案としたい。本日はよろしく願います。

(2)（仮称）練馬区学びと文化の推進プラン素案（案）について

○座長 懇談会の第三回である。本日は、前回までいただいた意見等をもとにプラン素案（案）を区が用意した。方向性のある程度固めていければと思う。プラン素案（案）が提出されているので、事務局の説明をお願いする。

（事務局の説明〈資料1〉 省略）

○座長

資料1 プラン素案（案）について、ご意見等はあるか。

○委員 視点1「学びでチャレンジ」の3で、生涯学習の例示が合唱や手工芸と掲載されている。特定分野を強調しすぎである。ここは音楽活動や美術活動、伝統文化活動等と大きくとらえるのがよいと思う。

○委員 文化芸術というとハイクオリティなイメージになる。例示のような手工芸等は隠れてしまう。活動している手工芸等の人にも焦点があたるように工夫して入れてほしい。

○事務局 調整して文案を検討する。

○委員 8頁の推進体制に大学・関係団体との連携・協働は出てくるが、区民との協働や協力の考えはないのか。

- 事務局 区ビジョン素案（案）との調整で企業や商店街との協働部分を加えた。区民との協働は大前提にある。表現を工夫したい。
- 委員 前回の会議で「女性の輝くまち」について話した。日本の文化の特徴はかな文字など女性主導の文化から始まっている。女性もっている日本らしい文化の部分を反映してほしい。
- 座長 副座長のご意見はどうか。
- 副座長 女性の参与を強く打出すのはよいと思うが、プランは全区民に向けてである。「年齢・性別を問わず」の表現があれば、その点は強調されると思う。
- 委員 女性は子育てや家事などに課題がある。練馬文化センターなどハコモノに出向き、子ども連れで鑑賞するのは難しい。普通の暮らしの中で、公園や遊び場で子ども連れでアートや音楽に出会うという形がよい。練馬に寄ってみたい、行ってみたいと思えるまちにしてほしい。まちなかでの開放的な取組みにすれば、女性も文化芸術に触れやすく、将来時間ができた時に、積極的な参加につながっていくと思う。
- 座長 「気がつけば」というように、自然に文化芸術に触れられる環境をもっと作っていく必要がある。例えば、喫茶店でコーヒーのおいしい入れ方がわかる、八百屋に行けば野菜のおいしいレシピがわかるというように、日常の生活の中から文化芸術につながることや触れられる環境ができてくるとよい。
- 委員 そういう考え方は非常によい。練馬区はこういう良い点があるというものがどんどんでてくるとよいと思う。
- 座長 先週、練馬駅近辺の地場野菜を使ったレストランがTV放映されていた。こんな練馬に住んでいいねと区外の人に思ってもらえるようなまちになってほしい。
- 委員 練馬E nカレッジは重要な概念であるが、プラン記載の解説ではわかりにくい。もう少し説明が必要である。
- 事務局 練馬E nカレッジは人材育成事業を束ねるものである。説明を加筆する。
- 委員 アニメコンペティションがようやく実現する。調布市や西東京市でも実施しているが、アニメコンペティションだけでいいのか。コンピューターグラフィックや実写もあると思う。審査の方法や審査員選定の仕組みを作してほしい。
- 委員 練馬にはアニメ関係者が多く住んでいたが、西東京市や杉並区等に散在、流出するようになっている。劣勢に立たされつつある。その中で打出すということであれば、小中学生が発表する場や若手のチャンスとしてもよい。そうすれば根付いていくと思う。
- 座長 産業分野と区がどう協力体制をつくっていくのが大事であると思う。アニメや映像分野は人材が育ちにくい。公的資金がそこに入れば変わってくる。区が如何に指導力を発揮するかということがポイントになる。区民が知らない間に文化芸術に触れられるというためには、区の指導力が必要である。
- 委員 文化施設の改築にあたって、使い手と作る側が一緒になってあり様を検討するのはとてもよい。石神井公園ふるさと文化館は、区民意見をくみ取り非常に使い勝手がよい。練馬駅前のココネリは立派な施設だが、ホールの使い

勝手が悪い。先日、トイレの表示がわかりづらいと伝えたところ、デザインであると言われたが、同じような苦情が続いたのかサインの修正が行われた。デザインも大事だが、施設は簡単に修正がきくものではない。使い手と区民の声をよく聴いて対応してほしい。

- 事務局 練馬アニメコンペティションは産業振興分野の再掲事業として掲載している。産業経済分野との連携になる。また、プラン素案（案）には練馬文化センターの建て替えとは表記していない。仮に今の規模のものを改築すると、100～200億円の経費がかかる。今後どうするかを含めて、一步踏み出してご意見を伺っていききたいとの思いでの表記である。
- 座長 練馬駅は、練馬区の顔となる場所である。議論が尽くされるとよいものができると思う。
- 委員 ハードはよいものが必要である。改築するなら英知を結集して対応することが大事である。現施設は法定耐用年数を過ぎても使えるためそこは要検討である。訪れた人がいいねと思うためには、ソフト事業の充実も鍵である。71万区民が住むフィールドに協会としていろいろ仕掛けていこうと考えているが、協会のみではマンパワー不足である。区民の力を借りることが必要である。それにより地域につなげる力につながっていく。そこを行政が支援する。今日は女性委員はいるが、若い委員は欠席している。若い人の意見を聞かないのはもったいない。高齢者の視点に偏るのはいけない。
- 事務局（「素案は、どのパートも5年後を具体的に見据えたうえで、新たな取組みを企画していてわかりやすく好感が持てる」ことや「3大学合同の学園祭に関わって区民とのつながりが非常に感じられたが、その取組みが区民に浸透していかない経験を通じて、このプランの取組みにどのように区民参加を働きかけるか、情報提供をどのようにしていくかが課題である等」との、大学生委員の意見を紹介する。）
- 委員 改築は多額の経費がかかる。音楽の立場から言うと、練馬文化センターは音の響きの問題がある。そこを解消してもらおうと施設の活用度が上がる。チャンスをぜひ生かしてすばらしい音響の施設としてほしい。
- 委員 アンケートで必ず小ホールはクラシック系の音の響きが悪い、大ホールは2階階段の傾斜がきついのコメントがある。全体としては、駅に近い施設として、区外の人に評判がよい。メンテナンスで辛うじて現状維持を図っている。改築は100～200億円かかるので十分な検討が必要である。並行してソフト事業についても考えなければならない。
- 座長 アート・ラボのように、人が集まる場づくりはいいと思う。同じように映画撮影時等に公的施設の撮影協力があると非常に助かる。小中学校での利用は責任体制の問題があるが、学生の撮影ではよく小中学校を使って撮影したいという声が多い。話をしながら環境づくりが進むとありがたい。
- 事務局 広聴広報課で撮影場所等の対応をしているが、裾野を広げる観点から、大学連携の枠の中であれば検討は進むと思う。
- 委員 区内に撮影所があったのでフィルムコミッションはできないか。
- 事務局 プロモーションという視点で各地の状況を調査している。大変な作業が必

要であり、今回のプランには打ち出していない。

- 座長 都はロケーションボックスを設置している。区でも検討してほしい。
- 副座長 裾野のひろがりという面では、女性の参与や若手の意見が大事であるとの意見があった。文化活動を推進するうえで潜在力があり、パワフルなのは子育て世代のアラサー、アラフォー世代である。仕事もプライベートも充実させたい人が多いが参加時間が合わない人が多い。武蔵大学の特別聴講生制度では、再度教員免許を取りたいという女性やキャリアアップに熱心に取組む人がある。アラサー、アラフォー世代の活用や参画促進の取組みを進めてほしい。
- 座長 環境づくりの中で、子どもがつくられるところもある。子どもたちにどのようなものを提示できるかも鍵になる。子どもは環境になじんでいく。日常から子どもたちが触れられる分野を増やすといいと思う。
- 委員 (仮称)文化戦略ブレーン会議や舞台芸術監督等の招へいと記載があるが、具体的イメージを示してほしい。
- 事務局 (仮称)文化戦略ブレーン会議は、練馬文化センターをどうしていくかを含めて長期的視点に立ち、常設の言わばご意見番の会議体をつくりたいという内容である。舞台芸術監督等の招へいは、協会もこの間ウィングを広げてきているが、組織の体制強化も含めて民間の力を入れてさらに充実させたい。区の方針と異なることがないように、OBを含めて区人材のバックアップも行いたいと考えている。
- 委員 協会の自前の人材のみではアクションに限界がある。せたがや文化財団は世田谷パブリックシアターの芸術監督に野村萬斎氏を招へいしている。そのようなパワーが必要であると思う。経営感覚や発信力等センスがある人が必要になっている。一方で、練馬区のことをよくわかり、文化芸術にそれなりの考え方や素養も必要である。

プランには、カタカナ語が多い。例えばポタリングはぶらぶらする意味だが、あまりいい意味ではない。「ゆったりサイクル」などと名称を工夫すべきと思う。ポタリングと呼称するのはごまかしのようで違和感がある。
- 委員 パブリックアートとしてのまちなみの美学も必要である。豊島区の努力かどうかわからないが、タバコのポイ捨てが減少し池袋駅周辺がきれいになった。まちのイメージやグレードが上がった。練馬区はタバコのポイ捨てが未だある。タバコ問題の解決が必要である。これは子どもの教育にもかかわると思う。
- 委員 「成熟」という言葉は発展しない、停滞してしまうようなイメージがあり、今ひとつである。3つ意見を言いたい。文化と合わせて練馬区が発展していくことと考えると、若い世代が流入してくることが必要である。そのためには第一は、若者文化や子育て世代に向けた施策が必要である。地域にあるアニメスタジオから講師を出してもらい、児童館などでアニメのお絵かきや中高生向けにプロ人材の養成講座などを塾とコラボして検討する。放課後や親が帰ってくるまでゲーム漬けになっている子どもやつるんだりぶらぶらする子どもらの行き場のひとつになれば、子育て支援にもなる。

第二は、文化には広がりや根付くことが大事であることである。プランは幅広く網羅されその点はよいが、根付いていくためには集まる場、語らう場、空気を感じられる場の広がりが必要である。喫茶店やカフェがその役割を担うと思う。区内のあちこちにある喫茶店やカフェとコラボして絵画や音楽のサロンのように利用していくと、それが練馬の文化となって根付いていくと思う。

第三は、音楽やダンス・演劇を練習する場があまり地域にない。これを解消するため、例えば、駅前広場や公園の一角などを使用許可し、練習ができるように電源なども整備する環境づくりをすれば、そこへ人が集まり、文化が広がっていくと思う。

- 委員 底辺や子どもまで広げるといふ点では、学校応援団事業と学童クラブ事業の問題は大きい。小学生の時からいろいろなものに触れ、体験していくことがよいと思う。学童クラブ等に講師の出前等を派遣する取組みをもっと進めやすくする仕組みが必要である。学校活用の拡大は子どもだけでなく、大人が放課後学ぶことができることの検討も必要である。
- 委員 学校応援団事業と学童クラブ事業を統合して、平成31年度に20校のねりっ子クラブへの統合計画がある。よりわかりやすくなると思う。地域人材の活用を考えていく必要がある。超超高齢社会は年齢層が高いイメージに捉えがちである。プランの視点に超高齢社会との記載があるが、その言葉があると高齢者向けのプランかと思われる。若い世代も対象にしているとの記載があるとよいと思う。
- 事務局 元気な高齢者は、第一に仕事、第二は趣味や教養である。今回のプランでは、生涯学習は個人的な趣味活動から、学んだ成果の地域社会への貢献などに考え方の軸足を移している。行政の事業への参加は高齢者が多いが、民間の事業は若い人も参加している。超超高齢社会を見据えて、練馬区の文化をどうするのかについて、視点の書きぶりを考えたい。
- 委員 自分探しや何かやるには長い時間がかかる。若いうちから取組み、次の世代に申し送りする形をつくるのが大切である。学ぶということは年齢に関係がないが、それに合わせた学ぶ場はほしい。
- 座長 幅広い世代がいろいろなことを学びたい雰囲気になっている。学習や教育的な要素もあってよいと思う。
- 委員 アラフォー世代は子育てに忙しく、地域活動にあまり参加できない。託児サービスが練馬Enカレッジなどにあれば助かると思う。
- 委員 図書館は区民に一番近い窓口である。南田中小は南田中図書館ができて学力が伸びたと聞いている。小冊子による啓発や映画会、イベント等に積極的に取り組む図書館をもっと広げてほしい。
- 委員 成熟都市というキーワードには違和感がある。国際化の視点も入れてほしい。練馬のアニメを日本だけでなく世界のアニメにしてほしい。神戸市の神戸ジャズフェスティバル運営のように市民ボランティア運営で大きなイベント運営もできる。区だけではできないようなこともできるようになる。アニメコンペティションも数年に1回は国際コンペ方式にすると広がっていくと思う。

○座長 グローバル化は地域づくりにつながる大切な視点と思う。

○委員 昔、区に博物館を作ってほしいと要望したが、歴史史料がないからダメだと言われた。早稲田大学東伏見校舎周辺の縄文遺跡や白子川近辺に新羅文化の名残がある。子どもたちのアイデンティティのために、こういう土壌や文化の蓄えがあることを示していくことは非常に大事だと思う。

○座長 そのような文化資源も文化振興の中で大切にしていける意義があると思う。他になれば資料1の論議は終了する。次の議題の今後の策定スケジュールに入る。

(3) 今後の策定スケジュールについて

(第4回懇談会開催は、区民意見反映制度の区民意見の集まり状況等に応じて、懇談会の開催あるいは各委員への文書照会方式のいずれかを検討していくことで各委員の了承を得た。)

(4) その他

○座長 3の議題に入る。その他について何かあるか。特になければ、本日用意した議題は終了した。

○地域文化部長あいさつ

今日お示ししたプラン素案(案)は5か年で取組む事業を集めたものである。今日いただいたご意見を整理し、議会報告に臨みたい。今後、議会のご意見を踏まえ、再度皆様に計画(案)をお諮りしまとめたい。裾野の広い生涯学習および文化芸術に資する計画としていきたいと考えている。

○座長 以上で第3回策定懇談会を終了する。ご協力ありがとうございました。
(閉会)